

mopit-P (ステンレスパネルタンク)

取扱説明書

このたびは、ステンレス水槽をご採用頂きましてありがとうございます。
この説明書は、ステンレス素材の特性を生かし、水槽が常時安定した機能を維持するのに必要な諸事項について述べています。
安全・清潔にご使用して頂くために、運搬・据付の際はもちろんのこと、使用中及び保守管理の際も、よくご覧になって有効に御活用ください。
また、取扱説明書は紛失しないよう大切に保管してください。

目次

1. 構造	(1ページ)
2. 運搬・据付・配管上の注意	(2ページ)
3. 使用上の注意	(4ページ)
4. 保守管理	(7ページ)
5. 保証について	(9ページ)

(ご注意)

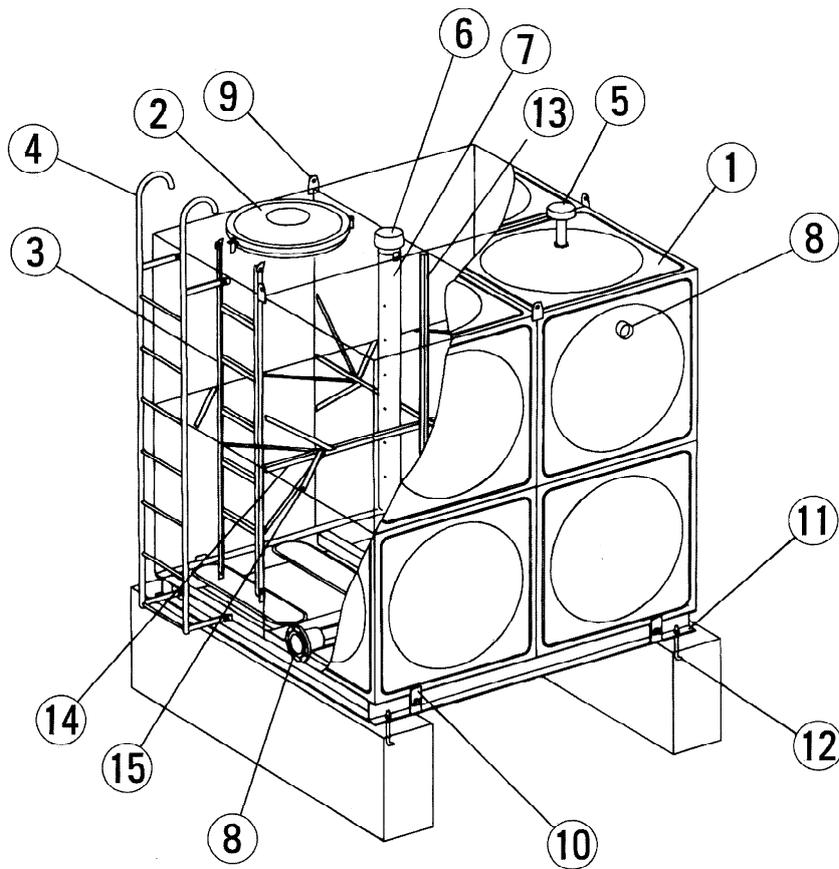
この取り扱い説明書は「飲料水の水質基準に関する省令」に適合した水道水などの飲料水を貯水（湯）する目的のタンクについてご説明致しております。

その他の用途でご使用される場合は当社の指導に従ってください。

特に薬品、汚物、温泉水、その他飲料水以外の物質を貯蔵される場合は、別途お打ち合わせの設計条件でご使用ください。

1.構造

ステンレスパネルタンクの標準的な構造を下図に示します。

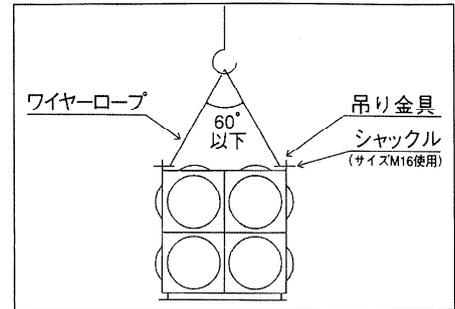


- | | | |
|--------|----------|----------|
| ①本体 | ⑥電極ボックス | ⑪受台 |
| ②マンホール | ⑦防波筒 | ⑫アンカーボルト |
| ③内トラップ | ⑧取出口 | ⑬柱材 |
| ④外トラップ | ⑨吊り金具 | ⑭引張材 |
| ⑤通気筒 | ⑩タンク止め金具 | ⑮ステー |

2.運搬・据付・配管上の注意

2-1 運搬

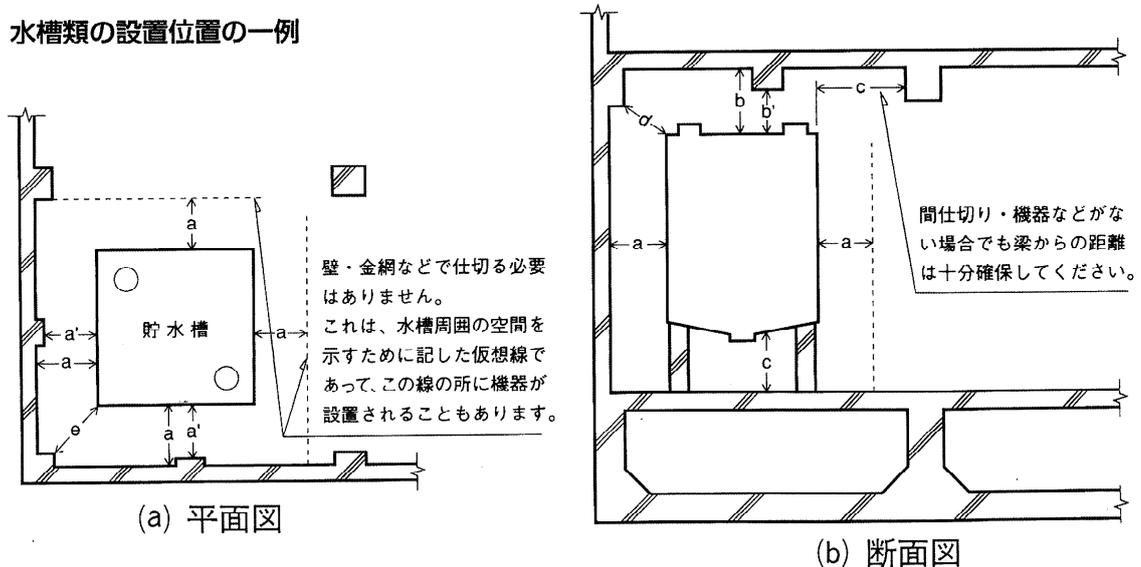
- 吊り上げは、必ずタンクに取り付けの吊り金具を使用して行ってください。また、ワイヤーロープ、シャックルは吊り上げ荷重を十分満足するものを使用し、図のようにロープの吊り角度は 60° 以下になるようにしてください。
- 車体やロープに接する部分には必ず緩衝材（布、発泡材等）をあててください。
- 配管接続口、付属品やマンホール等にロープをかけたり、無理な力を加えないでください。
- 鋭い角や堅いものをぶついたり、落としたり、工具類でたたくことは絶対に避けてください。特に保温施工タンクは外装材が薄く、傷が付き易い為十分注意してください。
- タンクを地面に直接置いて引きずらないでください。
- 素手による荷下しは危険が伴いますので、絶対に避けてください。
- タンクを仮置きする場合は、必ず転倒防止策をとってください。



2-2 据付工事

- 周囲は点検出来るように 60cm 以上、上部はマンホールからの人の出入りや保守点検の支障とならないよう 100cm 以上の間隔を保ってください。

水槽類の設置位置の一例



- (注1) $a, c \geq 60\text{cm}$ $b \geq 100\text{cm}$ この距離はすべて内寸法で測定してください。
 (注2) 梁・柱等は、マンホールへの出入りに支障となる位置にあってはけません。
 a', b', d, e は保守・点検に支障のない距離とします。

- 集中荷重や衝撃荷重等が局部的にかからないようにし、本体の水平度、垂直度を正確にだしてください。
- 耐震強度を低下させないように、アンカーボルト、セットボルトは必ず所定のものを使用し、確実に固定してください。
- 外タラップは、必ず所定のボルトを用い確実にセットしてください。

2-3 配管工事

- 配管はタンク本体側から施工してください。
- 配管は芯出しを正確にし、配管取出口に偏荷重がかからないようにしてください。
- 配管取出口にパイプをねじ込む時は、必ずパイプ径に応じたパイプレンチを用いてください。
- 配管取出口にバルブ、大口径パイプ等の重量が直接かからないように、パイプ支持台を設けてください。
- 配管からのパイプの膨張、収縮、偏荷重、振動がタンクに直接掛からないように伸縮継手を必ず用いてください。
- オーバーフロー配管の途中または端部にバルブを取り付けしないでください。
バルブが閉じていますと、排水時にタンク内が負圧になりタンクが破損する恐れがありますので、ご注意ください。
- オーバーフロー配管とドレン配管は接続しないでください。排水時にタンク内が負圧になりタンクが破損する恐れがありますので、ご注意ください。
- タンク内の配管及び継手等で鉄製のものは、絶対に使用しないでください。
タンク内の腐食の原因となります。
- 周辺でやむなく溶接、切断、グラインダー作業を行う時は、タンクに鉄粉、錆び等が付着しないように充分養生してから行ってください。
- タンクを足場として使用しないでください。タンク表面は滑りやすく危険です。
(保温施工タイプのタンクにおいて、タンクの上にて作業される場合は、アルミカバーが変形しないように必ず作業足場を組み、アルミカバーへの荷重を分散させてください。また、アルミカバーの凸部には絶対に乗らないでください。)
- タンクに機器その他の設備を取付けるときは、荷重、振動が掛からないようにしてください。(機器その他の設備を取付けるときは、当社の指導に従ってください)

2-4 給水の汚染防止に関する事項

- オーバーフロー管の末端は、適切な間接排水とし、防虫網を取り付けてください。
- 給水タンクの内部には、飲料水の配管設備以外の配管設備を設けないでください。
- 給水タンクの上にポンプ、ボイラー、空気調和機等の機器を設ける場合、飲料水を汚染することがないように衛生上必要な措置を講じてください。
- 最下階の床下その他浸水によりオーバーフロー管から水が逆流するおそれのある場所に給水タンクを設置する場合には、浸水を容易に覚知することができるよう浸水を検知し警報する装置の設置その他の措置を講じてください。

3.使用上の注意

3-1 使用前の注意及び準備

1) 給水前の点検は必ず次の事項を実施してください。

- タンク各部（マンホール、ボールタップ、通気口、電極、タラップ、アンカーボルト、本体の汚れ、錆、配管、タンク内のゴミその他各部）に異常がないかどうか全体的に点検して異常があれば処置してください。
- 運転中にタンクに管理者以外の人に触れないようにしてください。

2) 漏水の確認

- 使用前に運転上限水位まで水を入れ、タンク、バルブ、配管等に水漏れがないか確認してください。水漏れにより屋内、機械、その他重要な箇所に支障をきたす事がありますので、水漏れは完全に止めてください。

3) 異常音の確認

- 使用前の満水テストの給水中に異常音（タンク内の音、配管中の音、給水時のボールタップ等の異常音等）がありましたら、点検、修理してください。異常音は機械の異常発見の基本です。十分気を付けてください。

4) 給水の異臭確認及び水質確認

- タンクに貯蔵する水は飲料水です。給水中にタンクのマンホールを開け、色、臭い、水質の異常が無いか、専門家に調査を依頼してください。臭いに付いては、極端な塩素臭、腐敗臭、薬品臭等異常がある場合はその原因を取り除いてください。
又、井水については、水道水の水質に合致する様に調整し、人体に害の無い様確認してください。

5) 養生用ビニールフィルムについて

- ビニールフィルムがタンク表面に貼ってある場合はタンク納入後1ヶ月以内に取り除いてください。長期間貼ったままにしていると取れなくなります。

6) 安全の確認

- 運転中にタンク管理者以外のタンクについて知識の無い人が入ったりタンク周り、タンクの上に異物等を置いたり、その他タンク関係以外の物、設備等が無いようにしてください。
- タンク周囲のフェンス入口、マンホール入口等の施錠を確認してください。
- 運転中にタンク及びその周りに管理者以外の人が入り出来ないようになっているか確認してください。
- 天井面は水で濡れていますと大変滑りやすい為、歩行には十分注意してください。

7) 本使用前の点検

- 仮運転の後、本使用前にて約1週間後にタンク内の総点検**1)~5)**と及びタンク内の清掃を必ず行ってください。
(タンクは、配管、機械等全てのシステムのゴミ等のたまり場となり、多